

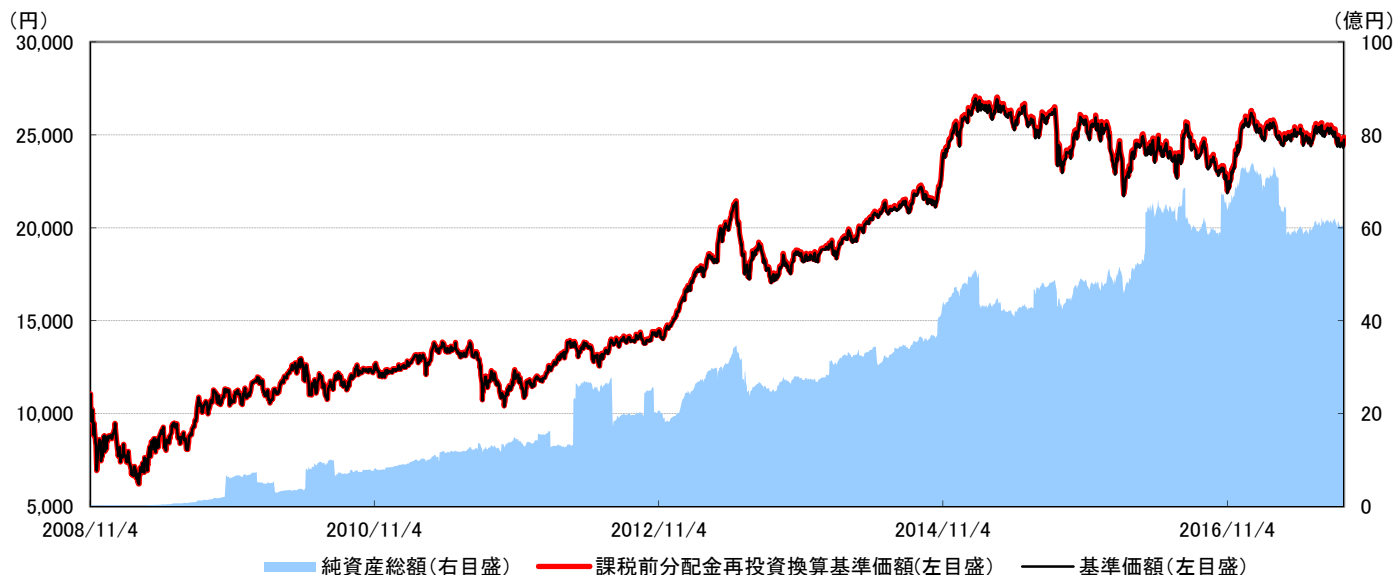


## ワールド・リート・オープン(1年決算型)

追加型投信/内外/不動産投信

作成基準日:2017年8月31日

### 設定来の基準価額の推移



※基準価額(1万口当たり)は、信託報酬控除後のものです。

※課税前分配金再投資換算基準価額は、当ファンドの公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、三菱UFJ国際投信が公表している基準価額とは異なります。

※上記は、あくまで過去の実績であり、将来の投資成果をお約束するものではありません。

### ファンドの運用状況(データは作成基準日現在)

基準価額 24,736 円

基準価額(最高値:2015/1/27)

26,957 円

基準価額(最安値:2009/3/9)

6,210 円

※基準価額は1万口当たりです。

純資産総額

60.8 億円

### ファンドの騰落率

期間	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	-1.4%	0.8%	-3.1%	1.4%	14.0%	148.8%

※ファンドの騰落率は、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出しています。したがって、各期間の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

### 課税前分配金の推移(1万口当たり)

'13/6	'14/6	'15/6	'16/6	'17/6	設定来累計
10円	10円	10円	10円	10円	90円

※上記分配金は過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。

※収益分配金は一定の分配金額をお約束するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。



# ワールド・リート・オープン(1年決算型)

追加型投信/内外/不動産投信

作成基準日: 2017年8月31日

## ポートフォリオの状況

※当レポートの各数値は表示桁数未満で四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※「業種別比率」「国・地域別比率」「組入上位10銘柄」の比率はマザーファンドの対純資産比率です。

※現金等には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

### 資産構成

ファンド		マザーファンド	
内訳	純資産比率	内訳	純資産比率
マザーファンド	99.5%	不動産投資信託証券	96.7%
—	—	—	—
現金等	0.5%	現金等	3.3%
合計	100.0%	合計	100.0%

### ポートフォリオ特性値

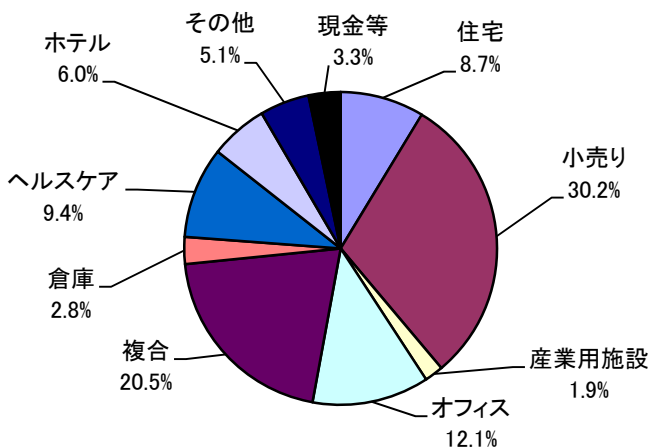
配当利回り
4.9%

※配当利回りはマザーファンドで保有しているリート(不動産投資信託)の実績配当利回りをマザーファンドの純資産に対する比率で加重平均した年率換算配当利回りです。税金・信託報酬等は考慮していません。

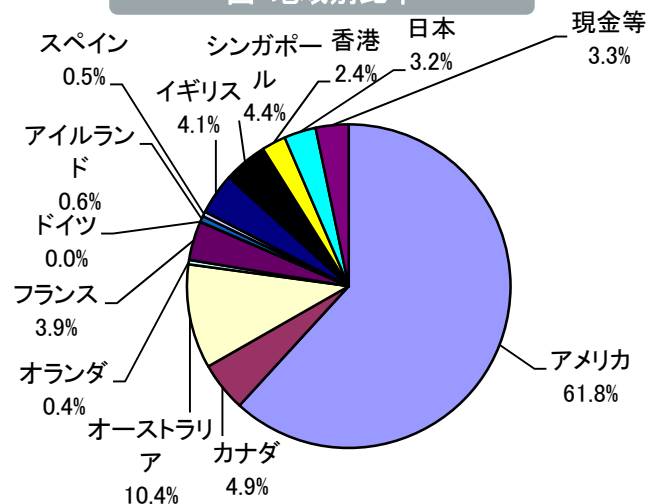
当ファンドの運用利回りを示唆するものではなく、将来の分配を保証するものでもありません。

(データ出所)ブルームバーグをもとに三菱UFJ国際投信作成

### 業種別比率



### 国・地域別比率



### 組入上位10銘柄 (組入全銘柄数 110)

	銘柄名	国・地域名	業種	純資産比率
1	サイモン・プロパティ・グループ	アメリカ	小売り	8.7%
2	ホルナード・リアルティ・トラスト	アメリカ	オフィス	4.3%
3	ベンタス	アメリカ	ヘルスケア	3.7%
4	エクイティ・レジデンシャル	アメリカ	住宅	3.4%
5	リオカン・リアル・エステート・インベストメント・トラスト	カナダ	小売り	3.1%
6	メイスリッチ	アメリカ	小売り	2.9%
7	リパティ・プロパティ・トラスト	アメリカ	複合	2.9%
8	パブリック・ストレージ	アメリカ	倉庫	2.7%
9	ホスト・ホテル&リゾート	アメリカ	ホテル	2.7%
10	スターウッド・プロパティ・トラスト	アメリカ	その他	2.6%

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。



# ワールド・リート・オープン(1年決算型)

追加型投信／内外／不動産投信

作成基準日：2017年8月31日

## 当月の基準価額変化の要因分析(1万口当たり)

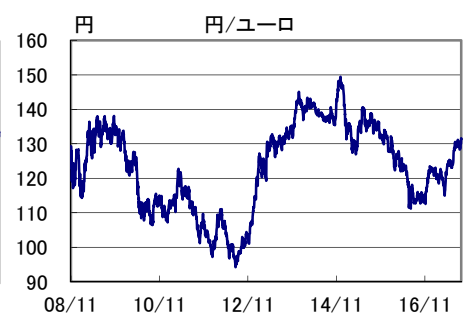
		前月末基準価額		25,075円
		支払分配金		-
国・地域		リート要因	為替要因	小計
アメリカ		-228円	5円	-223円
カナダ		-11円	-16円	-27円
オーストラリア		-13円	-15円	-28円
ユーロ		0円	17円	17円
	オランダ	3円	-	-
	フランス	-3円	-	-
	ドイツ	-0円	-	-
	アイルランド	-2円	-	-
	スペイン	1円	-	-
イギリス		-8円	-17円	-25円
シンガポール		3円	0円	3円
香港		-11円	-1円	-12円
日本		-8円	-	-8円
小計		-277円	-27円	-304円
		信託報酬等		-35円
		今月末基準価額		24,736円

※上記の数値は、日々の資料を基に簡便法により試算した概算値であり、実際の基準価額の変化を正確に説明するものではありません。また、各要因の数値は、円未満を四捨五入して表示しているため、その合計額は実際の小計額と異なることがあります。

## 主要投資国のS&P先進国REIT指数(現地通貨建て)と為替レートの推移



S&P先進国REIT指数とは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している指数で、先進国の不動産投資信託(REIT)および同様の制度に基づく銘柄を対象に浮動株修正時価総額に基づいて算出されています。同指数はS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス(S&P DJI)の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社に付与されています。S&P DJIは、同指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任を負いません。  
(データ出所) S&P



(データ出所) 三菱東京UFJ銀行対顧客電信売買相場の仲値

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。



## ワールド・リート・オープン(1年決算型)

追加型投信／内外／不動産投信

作成基準日:2017年8月31日

### ファンドマネージャーのコメント

#### ◎市場概況

(アメリカ)

アメリカ市場は下落しました。長期金利が低下したことなどは好感されたものの、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりや、米大手百貨店企業が発表した低調な決算内容を受けて投資家心理が悪化したことなどから、小売りリートを中心に下落しました。(アジア・太平洋)

アジア市場はまちまちとなりました。香港市場は年初からの上昇に一服感が出たことなどから下落したものの、シンガポール市場は6月の小売売上高が堅調な結果を示したことなどを背景に、小売りリートを中心に上昇しました。

オーストラリア市場は、大手複合リートが発表した決算内容が概ね好感されたことなどを背景に小幅に上昇しました。

(ヨーロッパ)

ヨーロッパ市場は小幅に下落しました。ユーロ圏の第2四半期GDPを中心とした経済指標が概ね好感されたものの、欧州中央銀行(ECB)ドラギ総裁の発言や地政学リスクの高まりを受けた投資家心理の悪化などを背景に下落し、月間では小幅に下落しました。

#### ◎運用状況

当ファンドは配当利回りが魅力的で、不動産への直接投資と比較して(純資産価値対比)、割安と判断される銘柄を中心に投資を行い、組入れ比率は高位を維持しました。8月は、アメリカ市場が下落したことや、為替市場で豪ドルが円に対して下落したことなどがマイナスに作用し、基準価額は1.4%の下落となりました。保有銘柄では、ニューヨークなどに所在するオフィス用不動産を保有する「ボルナード・リアルティ・トラスト」(オフィス/アメリカ)や、主にショッピング・センターを保有する「メイスリッチ」(小売り/アメリカ)などが基準価額にマイナスに作用しました。当月の主な売買動向としては、「パブリック・ストレージ」(倉庫/アメリカ)のウェイト引き上げや、「ホスト・ホテル&リゾート」(ホテル/アメリカ)のウェイト引き下げなどが挙げられます。

#### ◎投資環境見通しと今後の運用方針

アメリカは不動産価格や賃貸料などの実物不動産市場のファンダメンタルズが依然として堅調であることなどから、リートのキャッシュフロー成長率は今後もプラス圏を維持すると期待されています。雇用市場を取り巻く環境は引き続き改善すると見込まれており、こうした不動産に対する実需の高まりなどを背景に、賃貸料や入居率が安定するとみられているほか、個人消費が回復するにつれてアメリカ経済の成長が緩やかに持続すると期待されています。足下では、小売りの事業環境に対する先行き不透明感などを背景に小売りリートに対する売り圧力が高まっているものの、優良な物件を保有する大手小売りリートの決算発表では、キャッシュフロー成長率が引き続き緩やかに回復していることが確認されます。また、事業環境に対する懸念を受けた調整の結果、リートの価格はリートが保有する不動産の資産価値と比べ割安感が高まっており、こうしたバリュエーションに注目した資金流入が期待されます。

今後は、こうした小売りの事業環境を取り巻く動向に加えて、トランプ米大統領が掲げる政策課題の実現に向けた動きや、米連邦準備理事会(FRB)による利上げの頻度などを通じた影響が材料視されると思われます。アメリカの利上げに関しては、長期金利の上昇などは短期的にリート価格の値動きを大きくするとみえますが、実物不動産市場の事業環境が依然堅調であることやリート各社による借入期間の長期化の動きなどから、こうした金利上昇の影響は軽微に留まると見られています。

ユーロ圏は、イギリスのEU離脱(Brexit)がもたらす影響やドイツなどの欧州主要国で控える国政選挙の動向などに注視する必要があります。ただし、ユーロ圏の経済成長率や主要都市の不動産価格などは引き続き緩やかに回復の兆しを示しているほか、足下の低金利環境を受けたリートの利払いコスト軽減やリートによる物件の取得・開発などを通じた業績成長が期待されます。また、業界再編の動きが高まっていることなども注目です。

イギリスは、同国のEU離脱交渉の行方や離脱を受けた影響などには注視する必要があるものの、不動産開発の停滞に伴う物件の新規供給の減少が賃料の下落や空室率の上昇を抑制し、不動産市場の悪化に歯止めをかける効果をもたらすとみえます。

シンガポール、香港は、規制緩和を受けた物件の新規開発などを通じた成長などが注目されています。また、先進国リート市場の中では配当利回りが相対的に高い銘柄が数多く存在するため、利回りに着目した買い需要が期待されているほか、リートの業績が底堅い点にも注目です。また、シンガポールの実物不動産市場では、物件の供給過多などを受けた需給悪化の動きから調整していたものの、足下では回復期待が高まりつつあります。

日本は、日銀の緩和的な金融政策を背景とした低金利環境の長期化などが相場を下支えするとみられています。今後の物件供給の動向には注視する必要があるものの、足下の調整局面を受けて割安感が高まっていることや、リートが保有する物件の賃料改定などを通じた配当成長の動きに注目です。

オーストラリアは、国内経済が雇用市場を中心に緩やかに回復しているものの、インフレ率が依然として低水準であることなどから、豪州連邦準備銀行(RBA)による緩和的な金融政策は継続するとみられています。実物不動産市場では、シドニーなどの主要都市に所在する優良なオフィスの物件などを中心に、テナントからの賃貸需要は良好であり、賃料や空室率は改善傾向にあります。足下では、アメリカのオンライン小売り大手企業が同国へ本格進出するとの観測などから軟調な動きが確認されるものの、堅調な実物不動産市場や相対的に高い配当利回りに着目した買い需要などが同リート市場の支援材料になると考えられます。

当ファンドの運用については、引き続き、マクロ環境や実物不動産市況の変化、リート各社の経営内容などに着目していきます。その上で、「純資産価値とのバリュエーション比較」と「配当利回りの水準」の両面から見て、投資妙味や成長性などがより高いと判断される銘柄への投資を行っていく方針です。

※上記は、作成時点における市場環境もしくは運用方針等について記載したものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。



## ワールド・リート・オープン(1年決算型)

### ファンドの目的・特色

#### ■ファンドの目的

安定した収益の確保と信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。

#### ■ファンドの特色

##### 特色1 世界各国の上場不動産投資信託(リート)に分散投資します。

- ・世界各国の様々な業種のリートに分散投資することで、リート自体が持つ分散効果が更に拡大され、特定の国、特定の業種の景気変動の影響を受けるリスク等を分散・軽減する効果が期待されます。
- ・リートの組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ・原則として、為替ヘッジは行いません。

##### 特色2 MSIMグループ(モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・グループ)の運用ノウハウを活用します。

・運用体制は以下の通りです。

###### ●MSIMグループのグローバル・リート運用体制



【MSIM(ロンドン)】モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドにマザーファンドの欧州地域の運用指図に関する権限を委託します。

【MSIM(米国)】モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクにマザーファンドの資金配分および北米地域の運用指図に関する権限を委託します。

【MSIM(シンガポール)】モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・カンパニーにマザーファンドのアジア・オセアニア地域(日本を含みます。)の運用指図に関する権限を委託します。

・ポートフォリオの構築は、トップダウンで国や地域、セクター配分等を決定し、ボトムアップで個別銘柄を選定するという、2つのアプローチ(運用手法)の融合によって行います。

【トップダウン(・アプローチ)】運用方針の決定プロセスの一つです。まずマクロ分析により、景気、金利、為替といった経済全体に関わる要因を予測し、国別配分を決定し、次に株式、債券、為替などの資産別配分を決定し、具体的な組入れ銘柄を決定していく方法です。

【ボトムアップ(・アプローチ)】投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

・相対的に割安で好配当が期待される銘柄に投資し、安定した配当利回りの確保と、値上がり益の獲得を目指します。

【配当利回り】リートの価格に対する年間配当金の割合を示す指標であり、リートの価格水準の判断材料の一つとなります。

資金動向や市況動向等によっては、特色1、特色2のような運用ができない場合があります。

##### 特色3 年1回決算を行い、収益の分配を行います。

・毎年6月10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益配分方針に基づいて分配を行います。

収益配分方針

・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

・委託会社が基準価額水準、市況動向、運用の効率性等を勘案して、分配金額を決定します。

(ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。)

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

また、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

#### ■ファンドのしくみ

・ファミリーファンド方式により運用を行います。

<当ファンドが主要投資対象とするマザーファンド>

ワールド・リート・オープン マザーファンド

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## ワールド・リート・オープン(1年決算型)

### 投資リスク

#### ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

<b>価格変動 リスク</b>	リートの価格は当該リートが組入れている不動産等の価値や賃料等に加え、様々な市場環境等の影響を受けます。リーートの価格が上昇すれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、リーートの価格が下落すれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。
<b>為替変動 リスク</b>	当ファンドは、主に米ドル建、豪ドル建およびユーロ建等の有価証券に投資しています(ただし、これらに限定されるものではありません。)。投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。
<b>金利変動 リスク</b>	金利上昇時にはリーートの配当利回りの相対的な魅力が弱まるため、リーートの価格が下落して当ファンドの基準価額の下落要因となることがあります。また、リートが資金調達を行う場合、金利上昇時には借入金負担が大きくなるため、リーートの価格や配当率が下落し、当ファンドの基準価額の下落要因となることがあります。
<b>信用 リスク</b>	リートの倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、リーートの価格が下落すれば、当ファンドの基準価額の下落要因となります。
<b>流動性 リスク</b>	有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいは当ファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には当ファンドの基準価額の下落要因となります。一般的に、リートは市場規模や取引量が小さく、投資環境によっては機動的な売買が行えないことがあります。

上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

#### ■その他の留意点

- 投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## ワールド・リート・オープン(1年決算型)

### 手続・手数料等

#### ■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	ニューヨークの銀行、ニューヨーク証券取引所、オーストラリア証券取引所のいずれかが休業日の場合には、購入・換金はできません。 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	当ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(2008年11月4日設定)
繰上償還	当ファンドの受益権の総口数が、当初設定時の10分の1または30億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年6月10日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

#### ■ファンドの費用

##### お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.7%(税抜 2.5%)**(販売会社が定めます)  
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

##### お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.674%(税抜 年率1.550%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われる当ファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についても当ファンドが負担します。  
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に当ファンドから支払われます。

※実質的な主要投資対象である不動産投資信託には運用等にかかる費用が発生しますが、投資する不動産投資信託は固定されていない等により、あらかじめ金額および上限等を記載することはできません。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、当ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

### 本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

#### ●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <http://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

#### ●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## 販売会社情報一覧表

ファンド名称: ワールド・リート・オープン(1年決算型)

商号 (*は取次販売会社)	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○		○	
宇都宮証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第32号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○		○	
光世証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第14号	○			
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第10号	○			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第170号	○			
荘内証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
松阪証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第19号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社(平成29年4月3日付で、常陽証券株式会社はめぶき証券株式会社に社名が変更となりました)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1771号	○			
山和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第190号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社秋田銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第2号	○			
株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社京葉銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第56号	○			
株式会社南都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第15号	○			